

企画・セッション その他企画・各種会議

10月24日(火) 9:00～10:30 第6会場(仙台国際センター 会議棟 2階 桜1)

臨床工学技士シンポジウム

医療安全 終わりになき戦い

—想定外の出来事を想定内にするための医療安全に役立つシンポジウム—

座長：旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学技師長 脇田 邦彦
石巻赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課長 熊谷 一治

院内では日々、様々なインシデント・アクシデントが発生している。患者誤認、転倒・転落、与薬関連ミス、医療機器の操作・管理ミスなどが定番として多発しており、各施設の医療安全管理部門ではレポートの提出を受けて対策を講じている。

今まで発生したことのあるインシデント・アクシデントに対しては、起こった事例を教訓とし、再び同じ事例が起こらないように運用システムの改善を図るためのルールとマニュアルの見直し、そして原因がヒューマンエラーであるならばリスクの再周知と再教育を繰り返し行い、医療安全レベルの向上に務めているものと思われる。

しかし、時として院内・外で発生報告の少ない想定外のアクシデントや、頻度は少ないが生命に直結するような事象に遭遇することがある。これらは情報が少ないため、対策が不十分であったり、全く無防備な状態で遭遇することになる。何よりも患者の生命最優先で事に当たらなければならないことは当然であるが、想定外で経験値の低い事象にいき遭遇するとその対応に苦慮することとなり、判断を誤ると患者の健康被害に至るリスクも考えておく必要がある。

今回我々は、今までの日本赤十字社臨床工学技士会の繋がりを活かして赤十字病院グループ内で発生した想定外の出来事や発生頻度が低い事例、安全管理の創意工夫などを提示して頂き、「想定外の出来事を想定内」として先手を打って対応できるスキルを養うために、一つでも多くのリスクを共有するシンポジウムにしたいと考える。

日頃、繋がりの強い日本赤十字社臨床工学技士会活動が功を奏し12施設から13事例もの希な出来事と創意工夫を「出し惜しみなく」提供して頂くことになった。

内容は人工呼吸器関連、生体情報モニター関連、輸液関連、非常電源関連、安全管理上の工夫などであるが「リスクの先読み感性」を養う上では必見の情報が満載であり、是非とも他の組織の臨床工学技士よりも一段上の仕事出来る赤十字臨床工学技士になるために参考にして頂きたいと考える。そして日本赤十字社臨床工学技士会のポリシーである「誇りと絆とプライド」を持った活動をアピールできるよう有意義なシンポジウムを目指したいと考える。

演者

1. 旭川赤十字病院 医療技術部 臨床工学部門 脇田 邦彦
2. 諏訪赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 宮川 宜之
3. 名古屋第一赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 開 正宏
4. 長野赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 木村 良雄
5. 秋田赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 大沢 元和
6. 高松赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 光家 努
7. 石巻赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 中野渡 保彦
8. 名古屋第二赤十字病院 医療技術部 臨床工学科 医療工学課 藪田 誠
9. 静岡赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 田形 勝至
10. 浜松赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 吉田 将紀
11. 松山赤十字病院 医療技術部 臨床工学課 安平 亜希
12. 姫路赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課 三井 友成